

(1)事業の概要等

令和6年度 事務事業評価シート

事業番号		B2201-1		事務事業名		史跡小牧山整備事業				事業期間			平成26年度		～	令和8年度以降		
実施計画事業		○											平成26年度					
実施計画事業以外の事業				担当部		教育委員会事務局				担当課・担当係			小牧山課 史跡係					
事業の概要	小牧市まちづくり推進計画(R5年～R8年)	分野別計画編	基本 施策	22	展開 方向	1	事業・予算区分	施設整備系事業	款	10	項	5	目	7	大	2	中	2
	根拠法令・個別計画	文化財保護法、史跡小牧山保存活用計画						対象 (何・誰を対象に)	史跡小牧山									
	目的 (何のために)	史跡小牧山の発掘調査を行い、その成果を元に史跡整備を行うことで、貴重な文化遺産である史跡小牧山の保護、保存を図り、史跡小牧山の価値を正しく分かりやすく後世に伝える。						内容 (どのような方法で)	○令和5年度の実施内容 史跡小牧山主郭地区第2工区整備、史跡小牧山主郭地区第4工区実施設計、史跡小牧山主郭地区第4工区発掘調査等を行った。									

(2)事業費

事業費	項目				単位等	R2	R3	R4	R5	R6
	直接経費	決算額	財源	一般財源	千円	53,944	20,087	23,807	87,535	
				国・県支出金		25,976	25,267	63,093	28,914	
				その他		66,600	35,959	106,328	88,151	
			計(A)		146,520	81,313	193,228	204,600		
			対前年比		%	—	55.50%	237.63%	105.89%	
		予算額		千円	208,506	85,968	262,693	204,416	109,781	
	人件費	正規職員		人	2.0	1.0	1.5	2.0		
		正規職員(平均賃金)		千円	14,972	7,486	11,229	14,972		
		その他職員		人	0	0	0	0		
		その他職員(時給×時間)		千円	0	0	0	0		
		計(B)		千円	14,972	7,486	11,229	14,972		
	事業費合計(C=A+B)			千円	161,492	88,799	204,457	219,572		

(3)業績

展開方向における指標の推移	基本施策	22	指標名		単位	方向性	基準値	R5	R6	R7	R8
	展開方向	1	1	小牧山歴史館、小牧山城史跡情報館、小牧市創垂館の入場者数	人	↗	80,629	243,167			
			2								
			3								

指標	指標ほか		単位		R2	R3	R4	R5	R6
	成果指標			目標					
				実績					
				目標					
				実績					
	活動指標	発掘調査面積	㎡	目標	—	—	—	—	—
				実績	284	100	176	191	
		主郭地区の整備面積	㎡	目標	—	—	—	—	572
				実績	0	911	555	1,831	
	単位あたり 事業費	受益者数(a)		人	—	—	—	—	
		受益者あたり事業費(=C/a)		円	—	—	—	—	

(4-1)事業の評価

事業の評価	事業の方向性	維 持(改 善)	事業のボリュームは現状規模で維持するものの、手法の改善をするもの											
	事業の達成状況と課題	・令和5年度は、計画どおり、小牧山主郭地区の山頂歴史館周囲のうち、南側の石垣等復元整備を行った。さらに、令和7年度整備予定の歴史館西側の修正設計を行うとともに、整備に向けて必要な発掘調査(第4工区)を行い、成果を得ることができた。 ・近世城郭のルーツである小牧山城の復元整備については、全国的に参考事例が乏しく、発掘調査の成果等を基に、城郭整備等の専門家で組織する「史跡小牧山整備計画専門委員会」をはじめ、文化庁等関係機関と調整の上、整備を計画・実施に努めた。 ・整備工事中の安全確保のため立入規制範囲等を設ける必要があり、ホームページへの掲載や現地に看板等を設置して周知したが、歴史館や史跡小牧山の利用者からは、規制範囲やう回路が分かりづらいという意見があった。 史跡整備には多額の費用がかかるため、本事業に対する市民の関心、理解を深めていく必要がある。		今後の実施内容・今後の改善内容	・令和7年度の完成を目標に、引き続き歴史館周辺の史跡整備工事を実施していく。 ・次の整備として「史跡小牧山整備基本計画」に計画する大手道エリアについて、令和6年度より発掘調査に着手する。 ・整備に向けては、文化庁をはじめとする関係者と必要な協議を行ったうえで進める。 ・交通規制に伴い設定する迂回路について、看板の設置個所の増設をはじめ、目につきやすい表示を心掛けることにより、来場者の安全の確保に努める。 引き続き、史跡小牧山の価値を、市ホームページ、れきしるこまき(小牧山城史跡情報館)等で周知する。 ・発掘調査や史跡整備の必要性及び今後の予定について、あわせて周知に努める。									
	改善の有無	無		事務事業評価による額	千円 節 細節 細々節									
	これまでの改善内容													

(4-2)事業継続の可能性(事業のスクラップ可能性)

事業分析	評価項目		評価結果	評価結果を判断した理由
	妥当性	行政が公費を投入して実施することが妥当か(対象を見直すことはできないか)	妥当である	小牧山は国指定の史跡であり、史跡整備や発掘調査は行政が行うべき事業であるため。
	有効性	廃止・休止した場合に住民が影響を受けるか	多くの住民に影響がある	小牧市のシンボルであり、ブランドでもある小牧山の歴史的価値や魅力を正しく伝えることができなくなるため。
	効率性	サービスを低下させずに総事業費を削減できないか	現状のままでよい	小牧山の持つ歴史的価値や魅力を引き続き伝えていくためには、今後も継続的に発掘調査や史跡整備を進めていく必要があるため。
		外部への委託や類似事業との統合により事業費の削減の余地はないか	現状のままでよい	小牧山は国指定の史跡であり、専門的知識を有する学芸員により、正しく発掘調査を行い、復元整備する必要があるため、民間委託はできない。
	公平性	受益者負担は適正か	適正である	整備事業については特定の受益者がいないため、負担を求めている現状が適正である。